

## 広島・小1 女児殺害: 県被害者支援連絡協総会で、父「もう悲しい思いさせぬ」 / 広島

被害者の視点に立った支援を目指す「県被害者支援連絡協議会」の総会が26日、県警本部(中区)であり、05年11月、広島市安芸区で下校途中に殺害された木下あいりちゃん(当時7歳)の父建一さん(41)が事件直後から現在までの思いを語った。建一さんは「無力で純粋な子どもたちがこれ以上犯罪に遭わないよう、私たちのような悲しい思いをする人が現れないよう願う」と、出席した広島地検や弁護士会ら32団体38人と県警職員約100人を前に訴えた。

建一さんは、事件直後、犯人を自分の手で殺すことを誓ったという。被疑者逮捕の一報をラジオで聞いた時も「待ち伏せして襲い、殺そうと何度も考えた」と振り返った。法廷内でも約1メートルの距離にいる被告への復しゅう心がよぎったという。

1審求刑後、それまで伏せていた実名や性犯罪被害について報道することを希望した理由については「事実を正確に伝え、風化させないために世界でたった一人の誇れる娘の実名を出し、いつでも被害者にも被害者遺族にもなる(恐れがある)と自分のことのように考えてもらいたかった」と説明した。

性犯罪については「再犯性が高く、治療も難しいと聞く。厳罰化や出所後の情報公開など犯罪の未然防止が急務だ」と訴えた。

事件を巡っては、広島地裁が06年7月、殺人、強制わいせつ致死などの罪に問われたペルー国籍のホセ・マヌエル・トレス・ヤギ被告(36)に無期懲役(求刑死刑)を言い渡したが、検察、被告双方が控訴し広島高裁で公判中。【井上梢】

毎日新聞 2008年2月27日